

ミズノ株式会社と連携協力に関する協定を締結

スポーツを通じて社会貢献、地域連携 新ユニホームを紫紺の関大色で統一



握手を交わす、楠見晴重学長(左)とミズノ株式会社 上治丈太郎専務取締役

関西大学とミズノ株式会社は、連携協力に関する協定を締結することで合意に達し、1月17日に協定書の調印式を行った。今回の協定は、教育・研究・文化の振興、人材育成、スポーツの振興、社会貢献などの分野において、双方の発展と充実に寄与するために積極的に連携を推進することを目的としている。関西大学が民間企業と連携協定を結んだのは、今回で5件目であり、銀行以外では初めての協定締結となった。

●地域貢献を重視しスポーツ文化を振興

関西大学とミズノ株式会社との連携協力に関する協定の調印式は、1月17日に千里山キャンパス100周年記念会館で行われた。

関西大学からは楠見晴重学長、廣瀬幹好副学長(社会連携推進担当)、黒田勇副学長(総務・渉外担当)、ミズノ株式会社からは上治丈太郎専務取締役、楠本昌男アスレチック事業部西日本営業部長が参加した。

初めに、楠見学長が挨拶を述べた。「今年で125周年を迎える関西大学は、国際化とともに地域連携の強化に力を入れています。大阪に生まれ、長く大阪に育まれてきた本学とミズノ株式会社が協力して、学術文化、スポーツに関するお互いの資源を提供することで、この大阪、そして関西という地域の社会と文化の発展に大きく貢献していこうとするものです。国際化と地域連携という本学の方針に合致する日本のリーディング企業であるミズノ株式会社との連携を深めて、多くの知識や情報を共有することで、お互いにこの地域に貢献していきたいと考えております」

連携協力事業の内容として、次の6項目が挙げられている。

- ①教育・研究・文化の振興に関すること
- ②人材育成に関すること
- ③スポーツ文化があふれる地域づくりに関すること
- ④スポーツの振興に関すること
- ⑤社会貢献に関すること
- ⑥双方が有益にして必要と認める事業

●紫紺を基調に、統一感のあるユニホームが誕生

ミズノ株式会社は、国内最大手の総合スポーツ用品メーカーで、1906年創業の老舗である。お互いの伝統と歴史を基にして、両者のさまざまな資源を生かす連携協力の発展が期待される。

具体的な内容については、黒田副学長から説明があった。「本学の各クラブのユニホームやウェアは、それぞれ素晴らしい伝統を引き継いでいるのですが、統一感に欠けます。これから関西大学のアイデンティティを明確に押し出すために、スクールカラーの紫紺を基調として、洗練された、統一感のあるユニホームを作製していただくこととなります。まず、アイススケート部、アイスホッケー部、アメリカンフットボール部、サッカー部、野球部、陸上競技部(駅伝)、応援団吹奏楽部のユニホーム・ジャケットが新しくなります。また、ボランティア活動などを行う際のTシャツ等も含まれます」



続いて、ユニホームなどのサンプルが披露された。

今後、関西大学体育会が近隣の小中学生を対象に実施している「一日体験入部」やスポーツ教室での連携、関西大学ボランティアセンターが中心になって行っている淀川河川公園の清掃ボランティア活動での連携なども予定されている。

「第4回 関大ふくい笑い講」開催

文化会落語大学と「笑い測定機」も活躍 福井県と連携し「笑いの力で健康長寿」を实践

健康長寿に大きな力を持つと考えられる「笑い」を、一人ひとりの健康づくりに役立ててもらおう目的で、「笑い」と「ここから」について考える「第4回 関大ふくい笑い講」が、1月23日に福井県で開催された。関西大学の学生も参加して繰り広げられた講演と落語のひと時、会場は終始笑いにつつまれた。



講演と落語が開催された「笑い講」に約500人が参加

「第4回 関大ふくい笑い講」のプログラム



NPO法人プロジェクトaHと関西大学文化会落語大学による「『笑い測定機』の挑戦—あなたの笑いを測ります—」では、学生たちのフレッシュな小唄が巻き起こす笑いを数値化して見せた。笑い測定機は、故 木村洋二関西大学名誉教授が考案したもので、横隔膜の振動を計測して笑いの強さを測ることができる。木村名誉教授の元で学んだ人たちが参加しているプロジェクトaHは、笑い測定機の研究・開発事業を通して心身ともに健康な社会の構築に貢献することを目指している。

●免疫力を活性化する笑いの力

落語家のゲストとして、桂かい枝さんが登場。桂かい枝さんは、15年ほど前から英語による落語を始め、これまでに世界10カ国以上で公演を行い、上方落語の次代を担う若手として注目されている。当日は、さすがプロという笑いの芸を披露した。

医師で日本笑い学会副会長の昇幹夫氏は、「元気で長生き、PPK(ピンピンコロリ)のコツ!」のタイトルで講演。「笑いは体内の免疫力を活性化し、がん細胞を破壊する」という吉本の笑いをういた実験や、がん患者とのモンブラン登山という生きがい療法を通じ、笑いの効用を解説した。

関西大学と福井県との連携事業は、河田梯一前学長が2006年に新聞に寄稿した記事の中で、福井県出身の歌人である橘曙覧たちばなのあけみに関する言及があったことから、西川一誠福井県知事が御礼の書簡を送付したことがきっかけとなって始まった。

「関大ふくい笑い講」のほか、学生の課外活動団体である関西大学法律相談所による「福井無料法律相談会」など、さまざまな交流連携事業を行っている。

●「笑い測定機」で笑いの強さを測る

「関大ふくい笑い講」(福井県・関西大学主催、日本笑い学会後援)は、健康長寿に大きな効果がある笑いの力をテーマとする愉快な講座だ。第4回目の今年は1月23日、福井県民ホールAOSSAで、約500人が参加して開かれた。

「新年を寿ぐ笑いの祭り」と題して、森下伸也人間健康学部教授が講演。日本笑い学会会長を務める森下教授は、笑いを神に奉納して新年を祝う、世界的にもユニークな日本の祭りを映像とともに紹介し、その根底にある「笑門来福」の思想について述べた。